

白楽天と日本文学



洛陽の白楽天の墓陵



「洛陽の牡丹は天下に甲たり」として有名である

撮影 山田勝久さん

日本文学に大きな影響を与えた詩人の一人が、唐の白楽天（白居易）です。現存する詩はおよそ 2800 首、『白氏文集（もんじゅう）』に収められています。

入場
無料

白楽天の作品の中で、玄宗皇帝と楊貴妃の悲恋を詠んだ「長恨歌」、
「香炉峰の雪」を詠じた閑適詩などは、生前から遣唐使によって日本に伝わり平安文学に多大な影響を与えました。

講演では、白楽天の波乱万丈の人生と文学を語り、なぜ平安時代の文人は白楽天の詩文を受け入れ、愛好しているのかについて考察します。



11月4日（月曜日・祝日）14時より15時30分まで

定員80名（申込不要・先着順・無料・開場は13時30分より）

講師 山田勝久さん

大阪教育大学名誉教授
神戸常盤大学客員教授

大阪府立中央図書館 2階大会議室

（大阪府東大阪市荒本北1-2-1）

講演概要

平安時代の女流文学者が愛好した『白氏文集』、その文学精神の基盤を考察します。また、『和漢朗詠集』に収められた白楽天の詩句の傾向性を分析して、なぜ白楽天の作品が王朝人の心をとらえたのかについて思索、さらに、鎌倉遺文に引用された白楽天の詩句も鑑賞します。

講師の山田さんは、白楽天の出生地の太原、左遷地の江州を訪ねています。さらに楊貴妃が殺された馬嵬に立ち、「長恨歌」誕生の歴史風土に思いをめぐらせました。本講座では、白楽天ゆかりの地である太原、江州、杭州、蘇州、洛陽、長安の詩跡と心象風景も紹介します。

山田さんはその著、『唐詩の光彩』・『唐代文学の研究』（笠間書院）の中で、「晩年の白楽天」と題して、7章（①政治 ②健康 ③飲酒 ④交友関係 ⑤知足 ⑥詩魔 ⑦仏教信仰）にわたり論究し、白楽天に肉迫、その研究成果をわかりやすく説明します。

最後に、白楽天の墳墓を守る54代目の子孫、書家として名を馳せている白謙恭氏とも交友を結んでいますので、子孫との対話を通しての白楽天文学に対する所感も語っていただきます。

【講師紹介】

山田勝久（やまだかつひさ）：1943年生まれ。北海道教育大学教授。大阪教育大学教授・学長補佐・附属池田中学校長。私立大学副学長・理事を歴任。現在は大阪教育大学名誉教授、神戸常盤大学客員教授。日本人として初めて楼蘭王国の陵墓の壁画を調査した。その他、パルミラやサマルカンドやネパールなどの古代遺跡を調査。著書に『唐代散文選』、『唐代文学の研究』、『唐詩の光彩』（笠間書院）、『パルミラの光彩』（雄山閣）など多数。

※講演会の参加に際して、障がい等の状況により、配慮が必要な方は事前にお知らせください。



【アクセス】

- 近鉄けいはんな線（Osaka Metro 中央線乗り入れ）荒本駅下車（1番出口）北西へ約400M
- 長田駅下車（3番出口）北東へ約1000M
- 東大阪市役所北側

問い合わせ先

大阪府立中央図書館

生涯学習事業担当

〒577-0011

東大阪市荒本北1-2-1

TEL 06 (6745) 0170 FAX 06 (6745) 0262

【駐車場】

- 有料地下駐車場：120台/入庫後15分間は無料（平日は100円/60分、最大料金500円、土日祝祭日は150円/60分、最大料金600円）
- 詳しくは、次のホームページをご覧ください。

<https://www.library.pref.osaka.jp/site/central/>